

山田洋次監督作品

母と

暮せば

もう息子には会えないと、思っていました。

- 第89回キネマ旬報ベスト・テン
主演男優賞・二宮 和也
- 第89回キネマ旬報ベスト・テン
助演女優賞・黒木 華
- 第39回日本アカデミー賞
最優秀主演男優賞・二宮 和也
- 第39回日本アカデミー賞
最優秀助演女優賞・黒木 華
- 第70回毎日映画コンクール
男優助演賞・加藤 健一
- 第70回毎日映画コンクール
音楽賞・坂本 龍一

松竹120周年記念映画

吉永小百合 二宮和也
 黒木華 浅野忠信 加藤健一
 広岡由里子 本田望結 小林稔侍 辻萬長 橋爪功

監督：山田洋次
 音楽：坂本龍一



平和を考える市民映画会

【日時】 10月2日(日) 午後1時30分開演
 【会場】 明野公民館(イル・ブリランテ)
 【内容】 平和朗読劇(はらんきょうの会)
 映画『母と暮せば』

■主催 筑西市
 ■後援 筑西市教育委員会
 ■問合せ 筑西市総務課
 TEL 24-2111(内線334)

入場無料

終戦70年——。

山田洋次監督が作家・井上ひさしさんに捧げて、
長崎を舞台に描く『母と暮せば』が、ついに映画化。

「50年以上の間、たくさんの映画を作ってきましたが、終戦70年という年にこの企画に巡り合ったことに幸運な縁と運命すら感じています。井上ひさしさんが、『父と暮せば』と対になる作品を『母と暮せば』という題で長崎を舞台につくりたいと言われていたことを知り、それならば私が形にしたいと考え、泉下の井上さんと語り合うような思いで脚本を書きました。生涯で一番大事な作品をつくらうという思いでこの映画の製作にのぞみます。」

山田洋次

未来に遺すべき珠玉の物語

戦争に引き裂かれた母と息子の「再会」を描く

優しくて、悲しい山田洋次監督初のファンタジー。

新作を発表するたびに海外の映画祭で熱狂的に迎えられ、今や世界中からも注目を浴びる中、山田監督が選んだテーマは、原爆が落とされた町……長崎。第二次世界大戦の敗戦から3年後、原爆で亡くなった息子が母親の前に現れるという物語だ。いつも笑いが絶えないおしゃべりが大好きな息子の亡霊と、少しおとぼけで少女のような愛らしさを残す母親が再会を果たし交流するという、随所にユーモアも添えられた山田監督初のファンタジーである。

山田監督が見つめるのは、何の前触れもなく、原爆で一瞬にして命を奪われた人々の悔しさ、突然消えた最愛の家族や恋人を焼け野原で探し続けた人々の悲しみと痛み……。死者7万4千人という数字ではなく、一人ひとりの想いを今に伝えるために、日本を代表する名匠が気迫を込めた、忘れてはならない、未来に遺すべき珠玉の物語である。

母親・伸子役に吉永小百合、息子の浩二役に二宮和也、浩二の恋人・町子役に黒木華、さらには浅野忠信、加藤健一、橋爪功、小林稔侍ら多彩な演技派が顔をそろえた。そして山田組初参加の本田望結も話題だ。音楽は、核のない世界を提唱する坂本龍一が初めて山田作品を手掛けた。

